

「何かに打ち込んで」、「前向きに」OBOG

卒業生を講師に迎えて就職活動に向けたアドバイスや指南をいただく茨城大学人文学部のOBOG懇談会が12日（金）午後1時から図書館3階のライブラリーホールで開催された。集まった講師は、地方公務員、金融機関、マスコミ、流通、製造業、アパレルの6業種からで、卒業後10年から昨年3月卒業まで幅広い。6人からは、「大学で、自分が打ち込んだと人に語れることを一つ作って欲しい」、「就職活動は、内定が出るまで苦しいが、積極的に頑張ってもらいたい」などのアドバイスがあった。



冒頭、佐川泰弘学部長が、「大人しく、消極的との評価がある茨大生だが、OBOGのア



ドバイスを参考に、就職活動では積極的に活躍して欲しい」と挨拶。清山玲教授をモデレーター役に第一部のパネルディスカッションが始まった。

求める人材について、7年前に卒業した佐々木理人（常陽銀行勤務）さんからは、「まじめな人、面白い人」、昨年卒業の佐藤伸賢さん（カスミ勤務）さんは、「切り替えの出来る人」、コマーシャル作成会社スプーン勤務

で4年前卒業の永井一成さんは、「人と接するので礼儀作法を知っている人」、10年前卒業の住友電気工業勤務の村岡恵一さんからは、「協調性のある人、前向きな人」などの声があった。

就活について、5年前卒業の石井里奈さん（ユナイテッドアローズ勤務）は、「勉強に打ち込み、自分に自信が出来て就活に臨めた」と振り返り、佐藤さんは、「英会話サークルで渉外担当を務めた。他大学へ単身乗り込んで交渉した経験が役立った」と語った。

新入生の頃は金髪だったという2年前卒業の阿部牧人（茨城県庁勤務）さんは、「大きな建物



が好きだったので、県庁のビルをみて、『このためなら頑張れる』との気持ちで就職試験を乗り切った」と語った。

職場について、永井さんは、「女性が半分を占めるが、意外に皆休日を大切にしている」

(永井さん)、「残業は減らす方向、午後 7 時には帰宅できる」(佐々木さん)、「休日は皆大事にしている」(佐藤さん)などの声が聞かれた。



第 1 部の終了の午後 3 時から、図書館 2 階の 6 つ部屋に分かれて在学生との質疑応答の場となった。公務員志望者の集まる部屋では、阿部さんから公務員試験の攻略法などが伝授されていた。流通業界志望の学生の集まった部屋では、惣菜を担当

している佐藤さんから、小分けにしたりして家族向けと単身向けの別々のパックを用意するなどの顧客の要望に応じた工夫などが説明されていた。

懇談会には、100 人近くの学生が詰めかけた。清山ゼミと古賀ゼミのゼミ員らが、部屋の確保から司会などまで担当し、トラブルもなくスケジュール通りの日程で終了した。



(終)